末茶式

全

YB20
102

YB20
102

東京帝國大學圖書印

B 23475

能改菴末茶式

布局ニ客側と建水側とあり。局板は截痕あるとき、そのある方を面邊とし、建水左ニあるときはその建水側、建水右ニあるときはその客側、席縫ニ當る。板上ニ風爐を安じ、爐上ニ釜（鍑）を据ふ。缶（注子、雲也）は背ニありて、その客側席縫ニ當り、客側の盒（髹棗子）建水側の盌（鍾、啜香）と鳧足をなして、局板の横邊ニあり。注子蓋ニつまみあるときは、これを横にす。盒はその前後徑をなして、席面二溝の正中若くは一溝ニ當

鷗外藏書

らしめ、（織部百條）盌はその客側席縫に當る。盒缶(ふく)及盌は、上縁傾きたるとき、低き方を面にす。司職(ふくさ)方（絹帊）は三角に折り、三疊して、右に向ひて開くこと扇の如くならしめ、盌と盒との間におく。客あらざる方の板の面側若くは注子の面側に當り、壁に沿ひて建水をおく。杓(ひしやく)（分盈）その上にありて、支蓋(ふたおき)柄に懸れり。盌面の内壁には受污巾(ちやきん)（拭盌巾）ありて、髻（下に見えたり）上に居り、面に向ふ。その上に筅(ちやせん)（筌、竺副帥）あり。仰ぎて盌の背縁に枕す。則(ちやしやく)（匙、撩雪）は筅の客側に

俯す。

座するに、身の前後軸をもて、釜の内耳に當らしむ。（紹鷗）

第一、司職方を帯ぶ。

第二、支蓋を安ず。抽き取りて、竹支蓋あるときは、節の臍を面にし、板の外方面邊におき、その外側をして席の第二縫に當らしむ。

第三、盌を移す。身前膝に遠く、板隅に近きところにおきて、則軸をもて、板の内側の線に當らしむ。

第四、盒を移す。身前膝に近く、极隅に遠きところにおき、其前後徑をして、則軸に同じからしむ。

第五、司職方を閲す。右手一角を撮み、左手にて内に向ひて縦に折ること二度、左拇に挂けて、横に疊ぬること二度、更に下に向ひて摺み、外凹内凸ならしめて、右手に取る。

第六、盒を閲す。先づ取りて、司職方を盖縫の右に當て、二字を畫して盖上を拭ひ、司職方ごとに盖を取りて、内を検し、盖を覆ひて、司職方をして右に沿ひて下らしむ。

第七、再び盒を移す。おきどころは缶面の建水側なり。

第八、盞を再移す。おきどころは盒の纔に去りたる跡なり。膝に近し。筅軸をして极内側に當らしむ。

第九、則を移す。尖を拭ふこと二たび、柄を拭ふこと一たびにして、盒上におく。盒に紋あるときは、よせうけおくべし。

第十、筅を移す。盞を出でゝ、缶面の客側に赴く。席縫を軸にす。

第十一、板隅を拭ふ。隅は左側前隅なり。
第十二、受汚巾を移す。拭ひたる板隅に移すなり。
第十三、杓柄を拭ふ。右手にて取り、左手にて司職方実を柄節のこなたにあて、右手にて上より覆ひつゝみ、柄を左手に移し、膝上に樹つ。
第十四、釜を開く。司職方にて蓋上を拂ふに、二字を畫するが如くし、さて蓋を取りて、支蓋上に安ず。

第十五、再び司職方を帶ぶ。
第十六、盞を燗む。湯を底を汲み、注ぎ畢りて、杓を釜口に安ず。
第十七、筅を閲る。左手牢く盞を握り、右手筅を取り、盞に入れて、一たび歷して閲し、盞中を右より一掃して、又歷して閲し、盞中を右より二掃して放ち、聲あらしむ。さて乃字を畫して引き上ぐ。檢し畢りては、故處にかへす。
第十八、盞を拭ふ。湯を傾くるとき、右手巾を

取り、臂を張りて、二次に盞壁を拭ひ、巾端を
示指と中指とにて撮み、巾字を畫して盞底
を拭ひ、故處に返せ。
第十九、受汚巾を閲す。右手にて盞中より出
し、両手にて搾り、袖中にて両手を潔め、さて
ひろげ、内に向ひて三分に摺み、左拇に挂けて、
右手にて上より両端を撮み、髻をなし、下に
向ひて巻くこと三度、髻を上背方に向けて、极
隅におくべし。
第二十、茶を點せ。盒を取り、蓋を盞と膝との
間若くは盞の客側におき、茶二匙を投じ、二字
を畫して平ならしめ、盒と則とを故處に返
せ。杓柄を下より把りて、逆に節に至る。茶に注
ぎ、筅を取りて拂撃すべし。
第二十一、茶を喫せ。右拇を内に挂けて盞を取り、
左掌に搭忽、右手を添へ、内を窺ひて喫むこと
一口。さて盞を措きて果子を食ひ、又取りて二口
半にて喫了すべし。さて口に當てしところを右拇にて
拭ひ、袷の内にて拇を浄め、盞を故處に返せ。
第二十二、缶を開く。蓋をば建水側の壁若くは

缶の外邊によせかけおく。
第二十三、釜を養ふ。右手杓柄を上より取り、左手に移し。右手に返し。水は表を汲むこと一杓。
第二十四、盞を潔む。冷水を以てし。
第二十五、筅を滌ふ。筅盞中にありて、雀の浴せる聲をなせ。
第二十六、受汚巾を還せ。盞底に入る。
第二十七、筅を還せ。
第二十八、再び司職方を閲せ。
第二十九、則を還せ。拭ひてのくせ。
第三十、盒を還せ。拭へども内を検せん。
第三十一、三たび司職方を帯ぶ。
第三十二、盞を還せ。
第三十三、再び釜を養ふ。水三杓。次に湯を汲み上げて落すこと、筧口の水の如くならしむ。杓を左に立つ。
第三十四、釜を闔づ。
第三十五、権に杓を置く。支蓋上におく。
第三十六、缶を闔づ。

第三十七、司職方を還す。
第三十八、杓及支蓋を還す。